

式辞

生駒山にも新緑が芽生え、新たな生命が躍動し始める季節を迎えています。

本日、PTA会長 谷野 薫里様、榎葉会会長 吉岡 宏之様をはじめ、保護者の皆様のご臨席を賜り、第61回奈良県立生駒高等学校入学式を、このように厳粛かつ盛大に挙行できますことは、私ども教職員にとりましても、この上ない喜びであり、高段からではございますが、心から厚くお礼申し上げます。

ただいま、入学を許可いたしました320名の新入生のみなさん、ご入学、誠におめでとうございます。今、皆さんは厳しい入学者選抜を見事に突破し、本日晴れて、入学式を迎えられました。皆さんの胸中は、生駒高校への入学の喜びと、これから始まる高校生活に対する夢と希望に満ちあふれていることと思います。先輩方が築いてこられましたこの生駒高校に新入生として皆さんをお迎えします。在校生、教職員を代表して、皆さんのご入学を心より祝福し、歓迎いたします。

これまで、皆さんをいつも気遣いながら、深い愛情を注いでくださったご家族をはじめ、お世話になった方々への感謝の気持ちと、合格発表の日のあの感激を忘れることなく、新しい道に自信をもって踏み出してください。

本校は、昭和38年、生駒山を間近に仰ぐ、この美しい高台に創建され、歴史と伝統を重ね、昨年度には「未来へつなごう 輝く60年の想い」をテーマに創立60周年を迎え、地域に根付いた活動を行い、地域の方々からご支援と高い評価もいただいています。また、卒業生も2万人を超え、本校の校訓「剛毅、敬愛、創造」を行動の指針とし、奈良県をはじめ日本全国ばかりか世界の各地で、各界において社会の発展に多大な貢献をされていることは本校の誇りです。校訓の「剛毅」とは、本校の校章にもなっています、榎の木のように芯のしっかりとした堅い意志をもち、決してくじけないこと。「敬愛」とは、周りの人を尊敬し、親しみの心を持つこと。「創造」とは、新しいものを自ら作り出すこと。校訓とは、この生駒高校で学んだ人たちにとって共通の精神となるものです。生駒高校は、創立以来、そういった学校であり続けてきました。新入生の皆さんは、今後このことを自らの誇りとして、守り伝えていく役割を担ったことになります。

また、校風として、真面目に一生懸命頑張ることは格好いい、が醸成されています。真面目には、誠実であることや真心がこもっているという意味もあります。この校風は、誠実に真心を込めて一生懸命に頑張り抜くことができると言い換えることができます。

みなさんは、チャットGPTを知っていますか。テキストメッセージを入力すると、それに応じた答えを返してくれる対話型AIで、AI業界では、その登場は歴史的な転換期とも言われています。これまで何日もかかって作成していたものが、このAIを利用すれ

ば一瞬にできあがります。途中の過程が見えずに、瞬時に出てくる結果だけが評価されてしまう社会に進んでいくかもしれません。そのような社会だからこそ、校風である真面目に一生懸命頑張ることは格好いい、誠実に真心を込めて一生懸命に頑張り抜くことができることは、強みになるのではないのでしょうか。これから始まる学校生活では校風を実践している先輩の姿を目のあたりにすることと思います。みなさんも、これから過ごす3年間で、真面目に一生懸命頑張ることは格好いい、をしっかりと自分のものにしてください。

先日、世界中が熱狂していたWBCでの大谷翔平選手の活躍を、みなさんもまだはっきりと覚えているのではないのでしょうか。大谷選手は、高校1年生の時に卒業時の具体的な目標を定めて、目標達成に必要な項目を書き出し、それを実践していました。その時の習慣が、現在の活躍に繋がると言われています。さて、みなさんは、今、入学したばかりで、卒業時の目標は定まっている人はほとんどいないでしょう。まずは、自分自身としっかりと向き合い、自分自身を理解して、これだけは絶対に達成したいという目標を定めてほしいと思います。目標に向かって、ひたむきに取り組むことで充実した高校生活を送ることができます。その過程で、目標達成に重要と言われている 1 目標を明確にする。 2 その目標の達成期日と計画を立て、紙に書き出す。 3 目標達成したときの姿をイメージする。 の3つを意識するようにしてください。

保護者の皆様、お子様が3年間の高校生活を充実したものとするためには、生徒自身の努力はもちろんですが、保護者の皆様と私たち教職員がともに協力し、支えあっていくことが何よりも大切と考えます。皆様方の力強いご支援を賜りますよう切に、お願い申し上げます。

最後に新入生の皆さん、3年後「生駒高校で充実した学校生活を過ごすことができ、本当に良かった。」と心から言えるように、日々の精進を期待しています。生駒高校の教職員は皆さんを全力で指導し、全面的に支援していくことを約束して、第61回入学式の式辞といたします。

令和5年4月11日

奈良県立生駒高等学校長

嶋岡 浩三